

# 目標と課題等に係る事務局案に対する各委員からの意見について (令和7年11月12日現在)



令和7年10月6日付けでお願いさせていただきました計画内容(目標や課題)に対し、事前にご回答いただきました、どうもありがとうございました。

未回答の方もいますが、過半数以上の委員の皆様からご回答いただきました結果です。

Q1 事務局(案)No.1についてお伺いします。  
次の選択肢の中から、一番良いと思うものをお選びください。

一番多かった案を赤枠で囲っています。

(案1)：「家庭における男女の役割意識の変革と共同参画の促進」

(案2)：「男女共同参画による家庭生活の促進」

(案3)：「家庭内での男女の協力と支援の強化」

(案4)：「男性の家庭参加促進と男女の協働による家庭支援」

(案5)：ほかのキーフレーズが良い

選択した回答数		理由
案1	○ ○ ○ ○ ○ 6	<ul style="list-style-type: none"><li>・(案2) (案4) は何のこと正在言っているのか意味が分かりにくい。</li><li>・(案3) は「男女の協力」だけでは性別役割分担意識の脱却という点が強調されない。</li><li>・意識啓発の必要性は感じるので、それに近い文言を残したい。</li><li>・案2と3は集約しすぎて目的や対象が分かりにくい。</li><li>・行動を促すために具体的な表記とする。 / 両性が意識を変革することが大切だと考えたため。</li><li>・自分自身のライフスタイルを築くためには、家庭における男女の役割意識の変革が必要で、それが共同参画の促進になると思う。</li><li>・役割意識の言葉があるので具体的に考えやすい。</li></ul>
案2	0	
案3	○ 1	<ul style="list-style-type: none"><li>・男女が家庭内で協力し支え合う実践の定着が求められるため。</li></ul>
案4	○ ○ ○ 3	<ul style="list-style-type: none"><li>・文面がわかりやすい。</li><li>・男性の育休率40.9%と言っても、女性と比べて短期間取得が多いと思うため「男性の家庭参加促進」はまだ外せないと思う。</li><li>・育児以外の家事を含めた家庭支援の充実が必要だから。</li></ul>
案5	○ ○ 2	<ul style="list-style-type: none"><li>・(案5) 性別で役割を決めない家庭生活の参画支援。</li><li>・家庭生活での役割分担は、各家庭の方針・個人の意向や適性によるため、行政が支援すべきは個人・社会に刷り込まれている性別役割分業を克服したうえでの家庭生活への参画の意思決定ではないかと思う。</li><li>・案4の「男性の家庭参加支援～」の「参加」は良くないが、「男女の協働による」は活かしたい。ただ、「～家庭支援」って何?と思ってしまうので、再考が必要。</li></ul>

# 目標と課題等に係る事務局案に対する各委員からの意見について (令和7年11月12日現在)



令和7年10月6日付けでお願いさせていただきました計画内容(目標や課題)に対し、事前にご回答いただきまして、どうもありがとうございました。

未回答の方もいますが、過半数以上の委員の皆様からご回答いただきました結果です。

**Q2 事務局(案)No.2についてお伺いします。**  
次の選択肢の中から、一番良いと思うものをお選びください。

一番多かった案を赤枠で囲っています。

(案1)：「男女のライフステージに応じた健康支援の強化」

(案2)：「男女共同での健康促進と生活支援」

(案3)：「全世代にわたる男女の健康と福祉の向上」

(案4)：「男女の健康意識の向上と支援の充実」

(案5)：ほかのキーフレーズが良い

選択した回答数			理由
案1	○ ○ ○	4	<ul style="list-style-type: none"><li>・すべての年齢層・ライフステージにおける健康支援を包括的に示せるため。</li><li>・案2の「生活」と案3の「福祉」は唐突な印象がする。</li><li>・案2の「男女共同での健康促進」は日本語として意味が分からず。</li><li>・案3の「福祉」は大切だが現行では健康作りの推進とつながっていない。</li><li>・案4は日本語としてつじつまが合わない。</li><li>・健康支援が”課題で施策の方向性が”想定しやすいから。</li></ul>
案2			
案3	○ ○ ○ ○ ○	5	<ul style="list-style-type: none"><li>・全世代とうたっている方が分かりやすい。 / ・ライフステージがキーワードだから。</li><li>・「全世代」が、一番「すべての年齢層やライフステージにおける」が明確だから。</li><li>・案3をベースに上記フレーズを男女表記に変えてはどうか。</li><li>・全区民、多様な生き方包摂するという観点から。</li><li>・健康づくりと、性と生殖の権利・健康の問題には、案3の表現が望ましいと思うから。</li><li>・「ライフステージ」より「全世代にわたる」の方が、読み手により伝わると考えるから。</li></ul>
案4			
案5	○ ○ ○	3	<ul style="list-style-type: none"><li>・本来あればここは「女性特有のライフステージに応じた健康支援の強化」であるべきだと思う。</li><li>・6次計画(詳細版)のP.45を参照したところ、元々は女性の産前、産後ケアや乳がん、子宮がん、また更年期など女性がライフステージの変化により影響を受けやすい健康リスクへの対応の話だったところに、よくある「男女平等なのだから男性も」的な意見から女性に限らない施策が追加されたのではないか、という印象を持ってしまった。もし今回この課題③を目標2から目標3へ移動させたのであれば、女性特有の支援に限っても違和感がないのではないか。そもそも、性別に関係ない健康づくりの施策は本計画ではなく、保健・医療・健康分野の基本計画に含めるべきではないですか?それでも女性向け施策だけではNGということであれば、「全世代にわたる男女特有の健康と福祉の向上」と、せめて「男女特有」というワードを入れ、男女それぞれに特有の健康課題があり相互の理解が大事という意味合いを持たせることで本計画の施策とする意義が保たれるのではないかと思う。</li><li>・(案5)人生に寄り添う健康支援。</li><li>・もともとの「生涯を通じた健康支援」という字面に、特定の年代やライフステージに焦点を当てる意味合いは感じませんが、すべての年齢層に切れ目のない支援を強調するならば「人生に寄り添う」という表現はいかがでしょうか。</li><li>・書き手の視点で言葉をまとめあげようすると論文の小見出しのようになり、読み手にはどこか他人事に聞こえてしまうため、読み手が得心できる視点でのキーフレーズ選びがよいかと思う。</li><li>・案1の「～健康支援の強化」は、強すぎてしまうので、「男女のライフステージに応じた健康支援の充実」ではいかがでしょうか?</li></ul>

## 目標と課題等に係る事務局案に対する各委員からの意見について (令和7年11月12日現在)



令和7年10月6日付けでお願いさせていただきました計画内容(目標や課題)に対し、事前にご回答いただきまして、どうもありがとうございました。

未回答の方もいますが、過半数以上の委員の皆様からご回答いただきました結果です。

Q3 事務局(案)No.3についてお伺いします。 次の選択肢の中から、一番良いと思うものをお選びください。			一番多かった案を赤枠で囲っています。
(案1):目標2であるワーク・ライフ・バランスの実現等を中心とした課題のまま現状維持する。			
(案2):目標3の課題とし、あらゆる暴力の根絶、困難を抱える方への支援、 ライフステージに応じた健康づくりや性と生殖に関する啓発・支援の3本柱とする。			
選択した回答数	理由		
案1 ○ ○ ○ ○ ○ 5	・暴力の根絶とは違う気がする。 ・ライフ=生活には家族が大きなウェイトを占めると思う。「性と生殖に関する啓発・支援」は家族の根本だから。 ・目標2の「自分自身を大切にし、」ということと「健康が」繋がっていると思う。 ・「性と生殖」はライフスタイルとも深い関わりがあるし、健康である方が希望するライフスタイルも選択しやすい。 ・健康はワーク・ライフ・バランスに影響されるから。 ・自分自身を大切にするという点では、現状のままの方が望ましいように思われたから。		
案2 ○ ○ ○ ○ ○ 7	・Q2「案1:男女のライフステージに応じた健康支援の強化」に変更した場合、性と生殖に関する支援や困難女性支援を含む内容となり、目標3の「誰もが安全・安心して暮らせる環境を整備する」に位置づけることが適切になるため。 ・Q3の「理由」に異論はありません。ただその場合、もう1つの施策の方向のほうを、A2で述べたように「女性のライフステージに応じた健康づくり」としたほうがよりしっくりくると思う。 ・困難女性に関する課題とも合致するため。 ・「希望して選択する」よりも前に「自分の身を守る」ことをきちんと教育すること、安心して過ごせることを目標にしても良いかも。男女問わず性犯罪の被害に遭ってしまうので。 ・目標3はライフスタイル選択の支えとなるもので健康支援も同じ役割をもつから。 ・事務局案の理由に賛同する。(2名から同回答)		

## 目標と課題等に係る事務局案に対する各委員からの意見について (令和7年11月12日現在)



令和7年10月6日付けでお願いさせていただきました計画内容(目標や課題)に対し、事前にご回答いただきまして、どうもありがとうございました。

未回答の方もいますが、過半数以上の委員の皆様からご回答いただきました結果です。

Q4 事務局(案)No.4についてお伺いします。 次の選択肢の中から、一番良いと思うものをお選びください。				一番多かった案を赤枠で囲っています。
(案1):課題①と②を複合させて、あらゆる年代・分野における男女共同参画の推進とする。				
(案2):現行のまま、課題①を「男女平等教育の充実」、課題②を「あらゆる分野における男女共同参画の推進」とする。				
(案3):上記2つの案以外が良い。				
選択した回答数				理由
案1	○ ○ ○ ○ ○	7		<ul style="list-style-type: none"><li>・あらゆる世代で教育学習を通じて男女平等と進んでいくと思う。/ そもそも「教育」の概念を議論しないと表記するのは難しいと感じました。</li><li>・似た方向性のものが、別々にあると混乱するため。</li><li>・男女平等教育と地域での共同参画促進はいずれも生涯にわたる意識形成を目的としており、あらゆる年代・分野を通じた一体的推進が適切なため。</li><li>・事務局の提案理由にある「施策の方向性を整理する観点」は理解するし、まとめた方が施策事業を推進できるのであれば、ぜひそうしていただきたい。ただし、意識と実態調査を丁寧に分析し、葛飾での課題をきちんと整理し、改めて施策の方向性に繋げていただきたい。</li><li>・事務局の考えに同意する。</li><li>・現行の2つは重なる部分もあると受け取れるから。</li></ul>
案2	○ ○ ○	3		<ul style="list-style-type: none"><li>・教育(特に学校教育)は今そのまま別立てにして、教育委員会や学校関係者に自分事として捉えてもらう必要がある。</li><li>・何ごともそうだが、「あらゆる分野」とすると当事者意識を持ちにくい。</li><li>・①②は、ターゲットにしている年齢層や取り組み機関が分かれている。</li><li>・目標達成、成果のふりかえりで課題が比較できる。</li><li>・教育の重要性に鑑み、別個にしておいた方がよいように思う。</li></ul>
案3	○ ○	2		<ul style="list-style-type: none"><li>・課題①と課題②はそのままにして、課題①の施策の方向を(1)のみとし、(2)を課題②の(1)と統合すればよいと思う。</li><li>・課題①「男女平等教育の充実」を課題として明文化し残すことは重要と思う。なぜなら、子どもが人格形成期を過ごす学校は男女の性別役割意識が刷り込まれその後生涯に渡って根付く温床となっており、施策の方向「学校等における男女平等教育の推進」はまさに施策の1番目に登場するにふさわしく最重要だと考えるため。</li><li>・(案3)課題①男女平等教育の推進</li><li>・課題②あらゆる分野での男女共同参画の推進</li><li>・男女平等教育の浸透は途上であるため「男女平等教育」の推進と「男女共同参画」の推進に分けて提示したほうが、課題が明確になる。</li><li>・男女平等教育のさらなる「充実」が課題となる段階に至っておらず「推進」に課題のある段階だと思う。</li></ul>

# 目標と課題等に係る事務局案に対する各委員からの意見について (令和7年11月12日現在)



令和7年10月6日付けでお願いさせていただきました計画内容(目標や課題)に対し、事前にご回答いただきまして、どうもありがとうございました。

未回答の方もいますが、過半数以上の委員の皆様からご回答いただきました結果です。

**Q5** 葛飾区男女平等推進計画(第7次)策定に向けて、現在の計画(第6次)目標の記載内容の改善については、先日の審議会でもご意見がございました。その後、本区で他自治体の同計画を確認した結果として、「ですます調」ではなく、「体言止めで言葉を短く表記」する目標が多いことが確認できます。このことについて伺います。

一番多かった案を赤枠で囲っています。

(案1):目標1から4の全てにおいて、現行のままが良い。

(案2):目標1から4の全てにおいて、前述の事務局案のとおり、体言止めによる記載が良い。

(案3):上記2つの案以外が良い。(案3の場合は、考えられる目標のキーフレーズをご記入いただけます。幸いです。ご理解とご協力のほど、宜しくお願いします。)

選択した回答数	理由	
		・ですます調のほうがすっと頭に入ります。事務局案の体言止めでは、印象が堅く区民に「自分とは関係ないスローガン」のような印象を与えかねず、ですます調のほうが区民へ語りかけている、説明している感じがして好感が持てると個人的には思う。 ※質問からはズレますが、目標3「誰もが安全・安心して暮らせる環境の整備」は日本語がおかしい気がします。「誰もが安全に・安心して」か、「誰もが安全・安心に」の方が自然だと思う。
案1 ○ ○ ○	3	・別に他の自治体に合わせる必要はないので、現行のままでよいと思う。 ・この策定した計画の読み手は誰なのか。あくまでも区民であり、区民のために立てた計画なので丁寧語でよいと思う。全部体言止めだと冷たい感じがするし命令調に感じるのではないか。 ・変更して体言止めにしても構わないが例示(目標1~4)の日本語表現に違和感があるものがある。例えば目標1「男女共同参画を推進」であるが、「男女平等意識を高め」の文言をどうするのか。また、目標2「自分自身が希望するライフスタイルの選択と支援」であるが、「と」で並立すると支援する主体が分からなくなる。どうしてもこのままなら主体が区であると分かるよう「選択「を」支援」がよいのではないか。 ・日本語表現をもう少し整理・工夫するのであれば、体言止めも一考の価値がある。  ・文書の見出しや小見出しとしては短いほうが読みやすいこともあります、区民に対して行政が約束する行動目標として「人が人に伝える宣言」の文体のほうが、読み手の理解を促す。
案2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	8	・あらゆる年代で分かりやすい文面が良いと思う。 ・キーワードのみの方が分かりやすく、イメージもしやすいため。 ・他自治体と同様に体言止めとすることで、簡潔で統一感のある表記となり、計画全体の見通しが良くなるとともに、行政文書としての整合性が高まる。 ・強い意識づけができる。 ・目標の明確化のためには簡潔な表記が良い。 ・体言止めの方がぱっと読んで、頭に入ってくることと、短い方が読む気になると思われる。 ・体言止めで短く言い切った方が理解しやすいから。(2名から同回答)
案3 ○	1	・第2回審議会を欠席したため、詳細な議論経過がわからないので何とも言えない部分があるが、「葛飾区民に対して伝わりやすい」言い回しが一番だと思う。 ・他自治体の計画というより、葛飾区内の他の計画ではどうなっているのか、その結果、計画が推進されているのか、も確認いただいた方が良いかと思う。(そもそも、こだわる部分はそこなのか?とも思うが。審議会でどんな流れでそうなったのかが不明なので、的外れだったらすみません。)